Jリーグユースカップ北信越・東海予選のハーフタイムで選手に指示を出す佐伯さん（左）＝富山市の空港緑地陸上競技場

富山で夢追う

欧州のクラブ目標に

サッカーの「FC富山U―18」監督

佐伯 仁史さん（37）富山市

全国高校サッカー選手権県大会の決勝が高岡市であった今月四日、富山市の空港緑地陸上競技場で、もう一つの高校生の試合が行われていた。

クラブチームの全国大会「Jリーグユースカップ」出場を目指す北信越・東海予選。北信越代表のFC富山U―18は、東海代表の愛知FCと対戦した。

FC富山は序盤、互角だったものの、次第にボールを支配される時間が長くなった。「ディフェンス、あわてるな。フリーにさせるな」と監督の佐伯仁史さん（三七）＝富山市奥田町＝が何度も指示を出したが、前半で2失点。後半に入っても、流れを変えられず、0―7と完敗した。

だが試合後、佐伯さんの表情は明るかった。「点差は開いたけど、選手は最後まであきらめなかった。今まで最高のゲーム」

FC富山は県内で二つある高校生を対象としたクラブチームの一つ。選手は富山市を中心にさまざまな高校から集まっている。多くが学校の部活動を辞めたものの、「サッカーを続けたい」とプレーしている。

欧州のように、地域に根差したスポーツクラブをつくる夢がある佐伯さんは、十年前から、小学生から大人まで所属する立山町のサッカークラブに選手兼指導者として参加。今年四月、高校生の部を独立させ、富山市内でFC富山を発足させた。

高校生は部活動でプレーするのが「普通」の県内で、クラブ運営にはさまざまな困難があった。「入試でチームが決まるのではなく、別の選択があっていい」と考えての活動だが、佐伯さん自身が高校教諭。学校ではサッカー部監督をしてきており、「なぜ、わざわざクラブもやるのか」との批判も少なくなかった。選手集めにも苦労した。

だが、地道に活動を続け、少しずつ理解者は増えてきた。現在、選手は約二十人。スタッフとして、小学校教諭や会社員など、クラブならではの多彩な人材が加わった。

学校がばらばらなため、午後七時からの練習は集まるだけでも大変だが、週四回続けた。週末は高校チームと練習試合を重ね、クラブは十月の北信越予選を制するまでに成長した。

佐伯さんは「初年度の目標は達成できた。来年は全国大会に出たい。でも、これから三年生が抜けるから、まずは選手を集めないとね」と笑った。

練習で選手にボールを出す佐伯さん（左）。常に世界最新の練習方法を取り入れている＝県総合運動公園屋内グラウンド

さえき・ひとし　筑波大卒業後、県立高校教諭となり、現在、雄峰高で体育を教える。小学校からサッカーを始め、富山東高時代はFWとして、全国高校選手権県大会の決勝まで進んだ。筑波大ではレギュラーになれなかったが、「日本代表になった中山らスター選手と練習し、サッカーを学べた」。FC富山は来年1、3月に新メンバー選考会を予定。問い合わせは事務局076（433）6123まで。